

## 手白癬

順天堂大学特任教授  
比留間 政太郎  
(聞き手 山内俊一)

手白癬についてご教示ください。

先日、手のかゆみと落屑を訴えられ来院されました。

白癬菌は手掌に病変を作ることは少ないと以前に聞いたことがあり、ほかの接触性皮膚炎と考え加療しましたが、よくなりず皮膚科の先生に紹介したところ、手白癬と診断されました。

手白癬は結構多いものなのでしょうか。特徴的な症状、症候がありましたらご教示ください。

<岡山県開業医>

**山内** 比留間先生、手に白癬ができるというのは、なかなかピンと来ないところもあるのですが。

**比留間** 白癬としては、診断が一番難しいというか、見逃しやすい部分です。多いものかどうかについて、全水虫というか、水虫、白癬自体が、体部白癬、口部白癬、足白癬、爪白癬、頭部白癬、いろいろな病型があるのですが、手白癬は全白癬のだいたい1%ぐらい、足白癬の人の20人に1人といわれていますので、うっかりすると専門医でも見逃してしまう可能性がある疾患ですが、決して忘れてはいけ

ない疾患です(写真1)。

**山内** 手白癬は手だけにできるのですか。

**比留間** 手だけというか、実際に手白癬といった場合には手のひらです。手背は普通の体部白癬に分類します。角層の厚い手のひらに生じるのが手白癬の定義になっています。

**山内** お聞きしたいことは、手だけなのか、要するに孤立性なのか、それともほかに、特に足ですが、ここにあるのかどうかといったことですが。

**比留間** 多くの場合は手白癬の人は重症の足白癬を合併しています。です

## 写真1



50歳、主婦。一見見逃しやすいが、左手掌全体に落屑、角化を認める。かゆみはない。右利きだが、左のみ荒れている。

から、ちょっと怪しいと思ったら、まず足を見ていただいて、足に足白癬、けっこう重症の、足の皮膚が厚くなっているとか、あとは爪白癬を合併しているとか、そういうものを見れば手白癬を疑うヒントになります。

**山内** どう見ても手だけしかないケースはいかがでしょう。

**比留間** 足は全くきれいで、爪白癬もない。手には、KOH検査で、菌がいるといった場合には、動物からうつった白癬とか、あとは柔道などの格闘技などでうつってくる白癬もあるので。ですから、真菌のKOH検査と真菌培養をして、珍しい菌が出れば症例報告ということになります（写真2）。

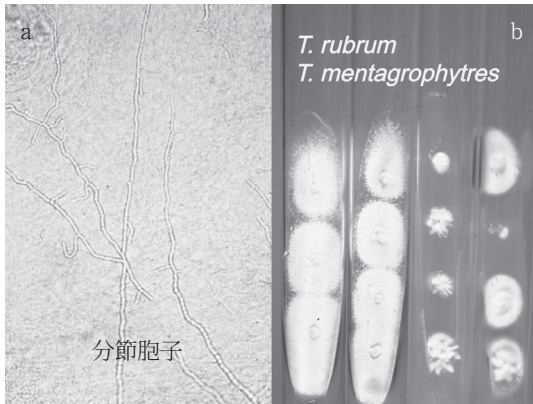
**山内** 手だけなら接触性皮膚炎でしょうとつい言うってしまう可能性は確か

に大きいですね。手の白癬の特徴的な症状、症候はありますかということですが。

**比留間** 白癬というのは、いろいろな疾患、湿疹皮膚炎群に似てしまうのです。発生機序自体が白癬菌に対するアレルギーでいろいろな症状が出てくるのです。漆にかぶれてもブツブツになりますし、水虫が感染してもブツブツになる。菌がいるからブツブツになるのではなくて、菌がいて、菌が出す菌体成分に対して皮膚のアレルギーがあってブツブツができますので、見ただけで診断するのはちょっと難しいのです。怪しかったらKOH検査をしていただくのがよいかと思います。

**山内** 原因菌によって症状が出ているのではなくて、むしろそれに対する

## 写真2



a. 角層中にKOH検査で見られた菌要素（分節胞子）。  
b. 培養された白癬菌。

リアクションとして症状が出ているのですね。

**比留間** そう、アレルギー性の反応なのです。手荒れなども症状はそっくりですし、そのほか汗疱といいますか、汗をかくために手が荒れたりとか、あと有名なのは掌蹠膿疱症とか、掌蹠角化症といって、手のひら、足の裏が硬くなるような、まれな疾患もあります。

**山内** 白癬ですから、足のように両側にできると考えてよいのでしょうか。

**比留間** これは感染症ですから、最初はどちらか菌が入ったほうに症状が出ますので、多くは片手なのです。ですから、「手荒れです」と患者さんがやってきたら、「右利きですか、左利きですか」と聞いて、「左手だけ私は荒れるんです」といった場合には、右

利きの人で左だけ荒れるのはちょっとおかしいなと思って、真菌検査をしていただく。

**山内** 手は足と違ってよく洗いますし、手袋をしょっちゅうはめているわけでもなく、ドライになっていることも多い感じがするのですが、それでもなってしまうものなのですね。

**比留間** 重症の足白癬の人の20人に1人という確率ですので、重症の足白癬の人がいたら、一応手も見えてあげるのも大切です。手になんてつくか。手は洗えば菌は落ちてしまうだろうと思いがちですが、手はいろいろなものをさわりますので、細かい目に見えない傷がついている可能性があるのです。そういうところから入っていくだろうと説明されています。

**山内** 感染を起こしやすいリスクは  
いかがでしょう。

**比留間** 足白癬自体が加齢とともに  
増えるといわれています。40歳過ぎの  
成人病、糖尿病、高血圧、高脂血症な  
どとともに増えるといわれていますの  
で、手白癬の人を見たら、肝機能検査  
等もしてあげるといいと思います。

**山内** やはり免疫能の低下が絡むの  
でしょうね。

**比留間** 詳しくは解明されていない  
のですが、局所免疫が落ちるとい  
うことですかね。もちろん、重症の糖尿  
病の人などはかなりの危険を含んでい  
ると考えていただいてよいかと思います。

**山内** もちろんこれは診断を誤って  
ステロイド剤をつけてしまうとたいへ  
んな話になってしまうでしょうね。

**比留間** そうです。ですから、ちょ  
っと怪しいなと思ったら真菌検査をし  
ていただくことと、1回だけ見るので  
はなくて、2週間後にチェックしまし  
ょうと。それでステロイドの反応が悪  
いのであれば真菌の検査をするよう  
な慎重さが大事ですし、手というのは  
大事ですからね。手の爪白癬などに  
なってしまうと、爪を見られるのが恥  
ずかしくて手が出せず、いつも隠し  
ていなければならなくなってしまう  
のです。

**山内** 美容上もたいへんですね。水  
仕事が多い女性に多いなどといった  
ことはあるのでしょうか。

**比留間** 昔は足白癬は男性に多く、

女性はなりにくいといわれていたの  
ですが、最近の調査では、男性のほう  
がやや多い程度ということです。手  
白癬も、パーセンテージからいくと男  
女ともだいたい一緒かなと思います。

**山内** 随分あちこちでできるもの  
のようですが、白癬はゲノム的に同  
じものと考えてよいのでしょうか。何  
か変異株があるとか、そういったもの  
はどうなのでしょう。

**比留間** 白癬菌は現在、30種類  
近くあるといわれています。さらに細  
かいゲノムの分類が日に日に増えて  
いますので、解析すればするほど細  
かく分かれてきます。

**山内** よくある話ですね。

**比留間** ですから、なかなか追いつ  
くのがたいへんです。なかには外国  
から入ってきた菌とかそういうもの  
もあるのです。

**山内** それはたいへんですね。

**比留間** 珍しい白癬菌の場合には  
ゲノムを調べるのがよいかと思います。

**山内** 最後に治療ですが、いかが  
でしょう。

**比留間** 手白癬の場合には、手の  
ひらの角層の厚いところに菌が入り  
ますので、つけ薬だけでは完全に治  
ることは難しいのです。ですから、  
抗真菌剤の内服を行います。

**山内** 手の内側は角層が分厚い  
のですか。

**比留間** 足よりは薄いですが、

手背部よりは厚いです。しかも、白癬菌がつくことによって白癬菌の菌体成分が刺激して角層が厚くなってしまいます。手のひらが厚くなって、亀裂が生じたりします。ですから、塗り薬だけだとしみ込まないので、経口抗真菌剤を短期間内服していただくのがよいかと思います。

**山内** よく使われる薬剤はどんなものでしょう。

**比留間** 内服はイトリゾールかラミシールです。現在はそれしかないですから、どちらかを選ぶことになります。使い慣れたものを使っただけならば

よいと思います。

**山内** これは状態に応じてでしょうけれども、大ざっぱに言って、使用期間は何日単位なのか、年単位なのか、いかがでしょう。

**比留間** イトリゾールの場合には足白癬は3パルス、3回やる。ラミシールで足白癬の場合には4～6カ月といわれています。手の場合にはその半分と考えていただければいいかと思います。イトリゾールならば1パルスか2パルス、ラミシールであれば2～3カ月のんでいただくと完璧かと思います。

**山内** ありがとうございます。